

セクシュアル・ハラスメン



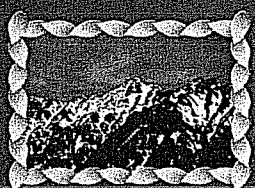
ない大学にするために

◇セクシュアル・ハラスメントとは？

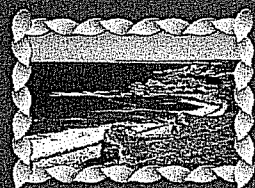
相手を不快にさせる性的な言動(発言や行動)をいいます。

大学内における相手の者を不快にさせる性的な言動はもちろん、学外における本学の学生や教職員、又は本学の学生の保護者等を不快にさせる性的な言動も対象になります。

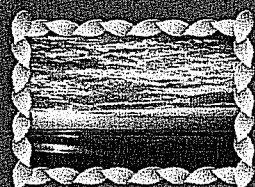
セクシュアル・ハラスメントに該当するかどうかは、基本的には言動の受け手がそれを不快に感じるかどうかによって決まります。



セクシュアル・ハラスメントは、
なぜ問題なのでしょうか？



セクシュアル・ハラスメントに
なりうる言動は？



セクシュアル・ハラスメントを
しないように気をつけることは？

各学部の相談員の方々

(学内限定ページ)



セクシュアル・ハラスメントは、なぜ問題なのでしょうか？



◇セクシュアル・ハラスメントは、なぜ問題なのでしょうか？

セクシュアル・ハラスメントを受けることにより、就労上または修学上（進学、進級、成績評価や教育研究の指導）の不利益を受け、仕事や学業に専念できなくなる状況になります。

その結果個人への影響として、

- ・耐えきれずに退職や退学せざるを得ないこともあります。
- ・個人の尊厳や名誉、プライバシーなどの人格を害します。
- ・精神や身体健康を害します。

また、大学に対する影響としては、

- ・大学内の人間関係を悪化させます。
- ・組織の志気を低下させます。
- ・大学の秩序を乱します。
- ・大学の信頼性を失墜させます。



トップページへもどる

セクシュアル・ハラスメントになりうる言動とは？



◇セクシュアル・ハラスメントになりうる言動は？

(1) 性的な関心、欲求に基づくもの

- ・スリーサイズを聞くなど身体的特徴を話題にする
- ・聞くに耐えない卑わいな冗談を交わす。
- ・体調が悪そうな女性に「今日は生理日か」、「もう更年期か」などと言う。
- ・性的な経験・性生活について質問する。
- ・性的な噂を立てたり、性的なからかいの対象とする。
- ・ヌードポスター等を部屋に貼る。
- ・雑誌等の卑わいな写真・記事等をわざとみせたり、これ見よがしに読む。
- ・身体を執拗に眺め回す。
- ・食事やデートにしつこく誘う。
- ・性的な内容の電話をかけたり、性的な内容の手紙・Eメール・FAXを送る。
- ・身体に不必要に接触する。
- ・不必要な個人指導を行う。
- ・浴室や更衣室・仮眠室等をのぞき見する。
- ・性的な関係を強要する。

(2) 性別により差別しようとする意識等に基づくもの

- ・「男のくせに根性がない」、「女には任せられない」「女性は職場の花でありさえずればいい」などと発言する。
- ・「男の子、女の子」、「僕、坊や、お嬢さん」、「おじさん、おばさん」などと人格を認めないような呼び方をする。
- ・カラオケでデュエットを強要する。
- ・女性であるというだけでお茶くみ、掃除、私用等を強要する。
- ・コンパ等で、上司(上級生)の側に座席を指定したり、お酌やダンスを強要する。



トップページへもどる

セクシュアル・ハラスメントをしないように気をつけることは？



◇セクシュアル・ハラスメントをしないように気をつけることは？

(1) 我々がとるべき望ましい行動

ア 一人一人が次の事項の重要性について十分認識しなければなりません。

- ・お互いの人格を尊重しあうこと。
- ・お互いが大切なパートナーであるという意識を持つこと。
- ・相手を性的な関心の対象としてのみ見る意識をなくすこと。
- ・女性を劣った性として見る意識をなくすこと。

イ セクシュアル・ハラスメントに当たるかどうかは、受け手の判断が重要です。

- ・親しさを表すつもりと言動であったとしても、本人の意図とは関係なく、相手を不快にさせてしまう場合があること。
- ・不快に感じるか否かには個人差があること。
- ・この程度のことは相手も許すだろうという勝手な憶測をしないこと。
- ・相手との良好な人間関係ができていると勝手な思いこみをしないこと。

(2) 受け手が嫌がっていることが分かったら、同じ言動を決して繰り返さないことが大切です。

(3) 不快な性的な言動であるか否かについて、いつも明確に意思表示がある(嫌だと拒否する)とは限りません。

- ・職場の上下関係や、就学上の関係から拒否することができないなど、相手からいつも明確な意思表示があるとは限らないことを十分認識すること。

(4) アフター5や学外でのプライベートな時間帯においても、学内での人間関係が存続する場合もあり、その場のセクシュアル・ハラスメントが勤務又は就学環境を害することがあることを十分認識すること。



トップページへもどる